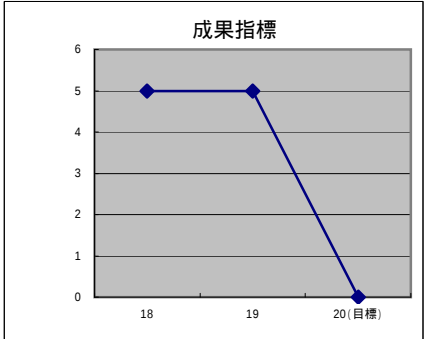
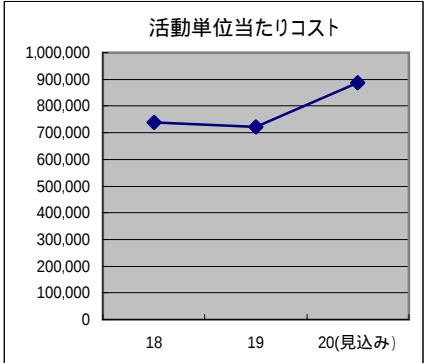


事務事業名		敬老会事業		会計	1	一般会計	
				款	3	民生費	
総合基本計画	まちづくりの目標(章)	2	健康で生き生きと暮らせるやさしいまち	項	1	社会福祉費	
	施策(節)	3	高齢者福祉	目	3	老人福祉費	
	施策の方向	(3)	高齢者の生きがいがづくりの促進	事業	2	老人福祉	
関連する計画等		羽曳野市高年いきいき計画		作成部署	保健福祉部福祉支援課		
				連絡先	072 - 958 - 1111 内線 1211		
事業の目的	対象(誰を・何を)						
	60歳以上の市民						
	意図(どういう状態にしたいのか)						
事業の内容	市内の高齢者に対し祝福の意を表し、あわせてその長寿を祝い、敬老思想の高揚と高年者福祉の増進に寄与する。						
	敬老の日前後の2日間で市民会館、陵南の森、石川プラザ、MOMOプラザ、丹治はやプラザの5会場において敬老会を開催する。						
	一部は式典・二部は演芸(芸能人)						
根拠法令等							
事業開始時期		☐ 昭和 ☐ 平成 年 月開始 ☒ 明確にはわからない 終了年度 平成 年度					
事業開始時からの状況変化		平成18年度より実施施設の指定管理者である施設管理公社に委託					
市民や議会の要望							
実施手法		☐ 直営 ☐ 一部委託 ☒ 全部委託 ☐ 補助金・助成金 ☐ その他()					
委託先		☒ 外郭団体委託 名称 羽曳野市施設管理公社		委託内容 敬老会開催業務			
		☐ 民間委託					

区 分		18年度 (実績)	19年度 (実績)	20年度 (見込み)
事業費【1】 (千円)		2,094	2,094	2,094
人件費【2】 (千円)		1,602	1,512	2,340
職員数	正規職員	0.18 人	0.18 人	0.20 人
	再任用職員	0.00 人	0.00 人	0.30 人
	嘱託職員	0.00 人	0.00 人	0.00 人
	臨時職員	0.05 人	0.00 人	0.00 人
	超過勤務(参考) (時間)	0.00 時間	0.00 時間	0.00 時間
総事業費(【1】+【2】)【A】 (千円)		3,696	3,606	4,434
財源内訳	国費 (千円)			
	府費 (千円)			
	市債 (千円)			
	その他(手数料・使用料等) (千円)			
	一般財源 (千円)	3,696	3,606	4,434
活動指標(事業の活動実績)【B】 単位		18年度	19年度	20年度(目標)
開催回数	回	5	5	5
活動単位当たりコスト(【A】/【B】)		739,200 円	721,200 円	886,800 円
市民1人当たりコスト(【A】/人口)		31 円	30 円	37 円



成果指標	指標名	指標設定の考え方	平成18年度	平成19年度	平成20年度
	開催回数(回)	成果指標にはなじまないため、実績値とした。	目標	達成率(%)	
	(式)		実績 5	5	
	(式)		目標	達成率(%)	
			実績		

市の関与の必要性	市の関与が必要な理由									評価	
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	必要性	分析・評価の説明
	法令上の義務	受益者が不特定多数	最低限の生活水準を確保	市民の不安を解消	社会的経済的弱者を対象	民間だけでは負担しきれない	民間だけでは供給不足	市の特色等を市内外へ発信	第三者にも受益がある	有	長寿を祝福するとともに、高齢者に対する敬老思想の向上を図る上で市として取り組むことに意義がある。
								○			

分析・評価	視点	分析のためのチェック点	はい	いいえ	該当なし	分析・評価の説明
	妥当性	市民ニーズが高い	☒	☐	☐	各地域の施設で行われる敬老行事として市民ニーズは高く、事業を廃止した場合の影響は相当に大きいものと思われる。
		市民ニーズに比較してサービスの供給過剰となっていない	☒	☐	☐	
		社会情勢の変化に対応している	☐	☐	☒	
		他市の水準と比較しても、対象範囲や水準を見直す必要がない	☐	☒	☐	
		国・府の事業と重複していない	☒	☐	☐	
		事業を休止、廃止した場合の影響度が大きい	☒	☐	☐	
		緊急性が認められる	☐	☒	☐	
	効率性	単位コストが適切である(経年、他市比較など)	☒	☐	☐	会場設営及び芸能人選定については、平成18年度より施設管理公社に委託しており、一定の効率化が達成できている。
		受益者負担の割合は適当である	☐	☐	☒	
		人員を削減する余地がない	☒	☐	☐	
		事業費を削減する余地がない	☐	☒	☐	
		簡略化できる方法や手段がない	☐	☒	☐	
		市の他事業と重複していない	☒	☐	☐	
		民間活力(民間委託、NPO、ボランティア、PFIなど)の活用について検討の余地がない	☒	☐	☐	
	有効性	上位の施策(目的)が明確である	☒	☐	☐	敬老思想の高揚および高齢者福祉の増進に寄与している。
		上位の施策(目的)への貢献度が高い事業である	☒	☐	☐	
		成果を向上させる余地がない	☒	☐	☐	
		市民の視点にたってサービスが提供されている	☒	☐	☐	
	協働性	事業の企画、立案に市民が参加している	☐	☒	☐	広報での案内とともに、祝品にチラシを同封して告知を行っている。
		事業の実施に向けて、市民と情報の共有が図られている	☒	☐	☐	
		事業の実施について積極的に市民の意見を反映している	☐	☒	☐	
		事業の実施に市民の参加、協力が得られている	☒	☐	☐	
	達成度	成果指標の目標値は適正である	☐	☐	☒	事業の特性上、達成度の評価にはなじまない。
		成果指標の実績値は目標値以上である	☐	☐	☒	
		成果指標は前年度より向上している	☐	☐	☒	

担当部局評価	総合評価	
	☐ 拡大・充実 ☒ 現状維持 ☐ 方法改善 ☐ 民営化・民間委託 ☐ 縮小 ☐ 廃止・休止 ☐ 完了	
	評価の理由	
	会場を分散し地域ごとに開催していることで参加しやすくなっており、当面は現状維持とする。	
	今後に向けて(取組方針、具体的な改善改革案など) 敬老思想の啓発のために引き続き実施するが、高齢化に伴い参加者が増加すれば、会場・実施方法等についての見直しが必要となる。	